

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立潮来第一中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

■期 日 : 2019年11月22日 (金)

■ク ラ ス : 2年1組 (28名) 、2年2組 (28名)

■オリンピアン : 川崎 努 先生 (スケート/ショートトラック) 【出場オリンピック/アルペルビル大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介後、2時間の授業を通して、川崎先生がオリンピックで体験した事を伝えながら、オリンピックバリューについて学んでいく、と授業の目的を確認。
- ・運動の時間は、「人の話をよく聞く」「協力する(ワンチームで)」「何事も全力でやる」ことを意識して取り組むことを約束。
- ・準備体操として、ダイナミックストレッチとじゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳び(90秒×全3回)を2班毎2チームで実施。引っかからずに連続で跳べた回数を競う。
- ・各回毎により作戦タイムを設け、多く跳ぶ為はどうしたらよいかを話し合う。

4. まとめ



- ・8の字跳びでは結果以上に、より多く跳ぶために創意工夫したことが大切である。
- ・各チーム立てた作戦の中に、授業の冒頭で触れたオリンピックバリューのに当てはまることがあった。
- ・次の座学の時間では、運動の時間を振り返りながらさらにオリンピックバリューについて学んでいく、と予告し授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・自身が現役中に使用していたスケート靴を見せながら、ショートトラックの競技特性等を解説。
- ・事前に調べたオリンピックバリューの3つの言葉の意味を確認しながら川崎先生の経験に基づくオリンピックバリューに関するエピソードを紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問①(個人)：運動の時間を振り返り、実践できたことや意識したことでオリンピックバリューに当てはまることを書き出してみよう。
- 発問②(グループ)：①で書き出したことが身近な目標(個人またはグループ)を達成する為にどう活かせるか考えてみよう。
- 発表：①「ノミズを目指した」「改善点を出し合った」、②「テストで自己ベストを取るために新しい勉強法を取り入れる」(エクセレンス)
 ①「協力する」「声かけをする」「失敗したら励まし合う」、②「勉強を教え合う」「スポーツ大会で応援をする」(フレンドシップ)
 ①「相手のチームの作戦を取り入れる」「縄をゆっくり回す」、②「テストを作ってくれる先生に感謝」「その人に会った競技を選ぶ」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューを意識しながら、あるいは積み重ねていくことで前に進めることができる。
- ・オリンピックバリューは、スポーツに限らず、勉強や部活動等、日常生活の様々なことに当てはめることができる。
- ・東京2020大会では出場選手がどのように努力し、仲間と協力し、リスペクトし合ってきたかを考えながら競技を観戦してほしい、と伝え授業終了。最後にアルベールビル大会の銅メダルを見せ、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



■ 記念品贈呈
2年1組



2年2組



■ 修了証贈呈

